

鹿児島大学教育学部と附属小学校の共同研究による「複式学級の指導を語る会」の取り組み

前田 晶子 [鹿児島大学教育学部附属教育実践総合センター]・高谷 哲也 [鹿児島大学教育学部(教育学)]
廣瀬 真琴 [鹿児島大学教育学部(教育学)]・中野 晶仁 [鹿児島大学教育学部附属小学校]
藤崎 智大 [鹿児島大学教育学部附属小学校]・池田 克則 [鹿児島大学教育学部附属小学校]

Multi-grade teaching workshops held by the faculty of education and the affiliated primary school in Kagoshima University

MAEDA Akiko・TAKATANI Tetsuya・HIROSE Makoto・NAKANO Akihito・FUJISAKI Tomohiro・IKEDA Katsunori

キーワード：複式学級指導法、「複式学級の指導を語る会」、複式学級の良さ

1 複式学級指導法を探究する場の必要性と可能性

鹿児島県では、周知のとおり、複式学級を有する学校は、小学校で県全体の45%と全国第一位の高率となっている。毎年5月に行われる鹿児島大学教育学部附属小学校の公開研究会には、初めて複式学級を担当した教員を中心に、多くの参観者が複式教育の会場を訪れている。しかし、複式学級の形態は、児童数1名という極小規模学級もあれば、学年が飛んで構成される変則複式学級もあり、公開研究会の場のみでは複式学級指導法についての課題を十分に深められないという限界がある。そこで、教育学部と附属小学校複式部の共同研究として、平成23年度より年2回の「複式学級の指導を語る会」(以下「語る会」)を実施することとなったのである。

本共同研究は、今年度で4年目を迎えている。当初、複式部主任から研究計画が提案された際には、「語る会」は公開研究会を補完するという位置づけが強かったが、会を重ねる中で、参加者の課題や悩みを共有するだけでなく、「複式学級の良さ」を明確にすることが本会の目指すところとなっていった。特に、附属小学校が平成25年度より新テーマ「個の確立を目指す授業の創造」を打ち立て、能力像の再検討を行った際には、複式部は「語る会」における討議の成果を踏まえた形で「複式学級において求められる子どもの姿」についてまとめている。このことから、「語る会」が単なる補完的

な位置付けを脱し、県下複式学級の現状を踏まえた複式指導法の開発を目指す場として発展していると評価できる。

さらに、「語る会」は、複式のデメリットを解消するための指導法を求めるだけではなく、複式だからこそ学びの主体性や共同的な学習が引き出せるという「複式学級の良さ」を具体的な授業のかたちとして共有する場ともなっている。この点は、参加者のアンケートからも明確になっているが、教師自身の複式に対する認識の転換がもたらす指導法改善への影響は大きいものと考えられる。

以下では、本会の取り組みの概要と参加者の声、「語る会」の成果と今後の課題について報告する。

2 「複式学級の指導を語る会」の概要

過去3年間(計6回)に渡って取り組んできた当会の概要をここにまとめると共に、各会で出されたアンケート結果をまとめる。

2.1 プログラムの概要

【第1回複式学級の指導を語る会】

日時：平成23年8月6日(土)13:00～16:55
場所：鹿児島大学教育学部附属小学校 複式Ⅲ組
日程：

- 13:00 開会行事
ヒヤリングシートの記入
- 13:15 本校の複式学級指導の概要説明
- 14:25 授業研究会、ワークショップI

(国語科ガイド学習)

14:35 授業研究会、ワークショップⅡ

(算数科ガイド学習)

15:55 複式学級の指導についてのワークショップⅢ (ヒヤリングシートをもとにしたグループ討議)

16:45 閉会行事

【第2回複式学級の指導を語る会】

日時：平成24年1月7日(土)13:00～16:55

場所：鹿児島大学教育学部附属小学校複式Ⅲ組

日程：

13:00 開会行事・移動

13:10 自己紹介

本校の複式学級指導の概要

13:25 ワークショップⅠ (国語科ガイド学習)

14:15 ワークショップⅡ

各人の悩み・課題を基にした座談会

15:55 ワークショップⅢ

ワークショップⅡでの話題を基に、ポスター作りを通して複式指導を考える。

16:35 閉会行事

【第3回複式学級の指導を語る会】

日時：平成24年8月8日(水)13:00～16:55

場所：鹿児島大学教育学部第2講義棟4階講義室

日程：

12:40 受付

13:00 開会行事

13:10 ワークショップⅠ

模擬授業(国語科：中学年)を通じた授業改善のポイント

14:25 探究活動：『気付き』が授業を変える！ガイド学習の指導のポイント

14:55 ワークショップⅡ

複式学級における学習指導や学級経営についての意見交換

探究活動：『未来』について語る－これから複式の子どもに求められる力とは

16:45 閉会行事

【第4回複式学級の指導を語る会】

趣旨：複式学級の指導における学習内部や指導方法及び生活指導や学級経営など、多様な課題に対し、意見交換やグループ討議などを通して、課題を共有したり課題解決のための具体策を考えたりする。

日時：平成24年12月27日(木)13:00～16:55

場所：鹿児島大学教育学部第2講義棟4階講義室

日程：

13:00 開会行事

13:10 ワークショップⅠ

事例を基にした「かかわる」ための指導

①高知大学教育学部附属小学校複式研究大会授業検証(ビデオ視聴)

②九州へき地研究協議佐賀大会の授業検証(ビデオ視聴)

探究活動：かかわるために必要な教師の手立て

15:05 ワークショップⅡ

本校の研究概要説明及び事例紹介及び質疑応答

15:55 ワークショップⅢ

各人の悩み、課題を基にした座談会

16:35 閉会行事

【第5回複式学級の指導を語る会】

テーマ：複式学級の「よさ」を問い直す

趣旨：意見交換やグループ討議などを通して、複式学級のよさについて、その特性をもとに考えを深めたり、複式学級の指導における学習内容や指導方法及び生活指導や学級経営などの課題を共有しながら課題解決のための具体策を考えたりする。

日時：平成25年8月19日(月)13:00～16:55

場所：鹿児島大学教育学部附属小学校複式教室

日程：

13:00 開会行事

13:10 ワークショップⅠ

複式学級の「よさ」を問い直す

13:50 ワークショップⅡ

複式学級の「よさ」を生かしたガイド学習のポイント

14:40 ワークショップⅢ

模擬授業（国語科）を通したグループ 討議	14：00	ワークショップⅡ 複式学級別指導の進め方のポイント紹介
16：00	ワークショップⅣ 複式学級における学習指導や学級経営 についての意見交換	14：55
16：45	閉会行事	ワークショップⅢ グループワークによる授業づくり 16：40 閉会行事

【第6回複式学級の指導を語る会】

趣旨：複式学級の指導における学習内容や指導方法に対し、意見交換やグループ討議などを通して、課題を共有したり問題解決のための具体策を考えたりする。

日時：平成25年12月27日(金)13：00～16：55

場所：鹿児島大学教育学部附属小学校複式教室

日程：

13：00 開会行事

13：10 ワークショップⅠ

複式学年別指導の授業づくりのポイント紹介

第1回では、附属小学校複式部における国語と算数のガイド学習について呈示し、後半ではヒヤリングシートをもとに参加者が悩みを交流し合う場を設定している。第2回も同様の構成になっているが、グループ討議では模造紙に課題を整理してポスターを作成する作業を行っている。

2年目となる平成24年度は、附属小学校の新しい研究テーマ設定に向けた模索期と重なっている。そこで、第3回では、『未来』について語る—これから複式の子どもに求められる力とは—という探求活動が行われている。その概要は表1にまとめたが、この結果、「語る会」の活動が次年度の

表1 第3回「語る会」における「求められた力」についてのアンケート

【質問】「これから複式学級の子どもに求められる力」について、選択肢から一つ選んで、その理由を書いて下さい。		
子どもに身につけさせたい力	その理由	人数
1 批判的に考える力	・他の子どもの意見でいいものがあると、自分では深く追究しない場合がある。じっくり考えて自分の中で納得できるまで考えて話し合い、結論を出していく力が必要である。 ・情報化社会の中で、知り得た情報が本当に正しいか、判断して生きていくことが大切である。	5人
2 未来像を予測して計画を立てる力		0人
3 多面的、総合的に考える力	・人数が少ないと他者の考えに触れる機会も少ないので、多様な考えに触れさせて自分の考えを選択する力を持たせたい。 ・少人数の中では、考えが凝り固まってしまうことがあるので、様々な視点でものごとを考えることが大切である。	8人
4 コミュニケーションを行う力	・他者への関心が低い子どもがいる。自分の意見とどこが違うのかを伝え合うなかで、他者を理解することが大切である。 ・将来、広い世界に出たとき、圧倒されて自分の考えを言えないことが懸念される。	13人
5 他者と協力する力	・少人数なので自分の意見が通りやすく、他者の考えを知る機会が少ない。しかし、自分一人では課題解決できない場合もある。従って、他者の立場に立って考えたり協力したりすることが大切である。 ・教師の関わりに制限があるならば、子どもの集団で学ぶ力を高めていくべきである。	5人
6 つながりを尊重する力	・人数の多少にかかわらず、「人、もの、こと」とのつながりは必要であり、重要だと考える。 ・異学年交流の中で上学年から下学年に伝えていくという考え方は、小規模校において非常に大切だと考える。	4人
7 進んで参加する力	・ガイドだけにまかせるのではなく、みんなで作り上げることの大切さを身に付けることで、自学への一歩になる。 ・「考えたい」「学びたい」と思うからこそ、進んで参加できると思う。	2人
その他： 高い目標に向けて努力する力	・少ない集団の中で満足するのではなく、より良い自分を目指して努力する力が大切である。そのために、教師側は具体的な目標提示が大切になる。	1人

公開研究会の計画に活かされることになったのである。

さらに、第4回では、附属小学校複式部の教員が視察を行った高知県と佐賀県の複式学級の公開授業の様子について、映像を交えて紹介している。黒板の配置など、基本的な教室レイアウトも鹿児島とは異なる地域があり、鹿児島の典型的な複式学級のイメージを見直すきっかけとなった。このように、2年目は視野を広げ、未来指向型のワークショップを実施したといえる。

続く3年目は、第5回で改めて「複式の良さ」とは何かを考えながら、その良さを活かす具体的な授業の提案が行われている。そして、第6回では、参加者がワークショップにおいて実際に授業づくりに取り組む共同作業を行っている。ここから、「語る会」は、悩みを共有する場から、複式の良さを活かした授業づくりの場へとシフトしてきているといえよう。

2.2 アンケートの結果

次に、参加者のアンケートの結果をまとめる。まず、参加者の概要であるが、表2に示したように離島を含めて広い地域に渡っていることがわかる。中には、複数回にわたって参加している参加者もいる。

次に、第1回と第2回のアンケート結果をみると、複式学級の担当者が集まって交流できたことの意義が大きいということが分かる。加えて、ガイド学習などの方法をただ型どおりに行うのではなく、学校や子どもの現状に合わせて独自に作り上げたいといった「複式学級指導法の自校化」への期待もみられた。

さらに、第2回のアンケートでは、「複式の良さ」を再認識したことの意義が多く上がっている。そして、学校全体として複式学級の良さを活かす実践に取り組みたいという展望が語られている。

【第1回 複式学級の指導を語る会・アンケート結果】

- 1 この会を通じて役に立ったこと
 - ・算数の模擬授業が大変参考になった。
 - ・複式学級の授業の流し方が分かり参考になった。
 - ・練り上げる段階の活動が参考になった。
 - ・学年別指導での教師介入のタイミングのヒントを得た。
 - ・共通の課題が多く解決に向けてのヒントをもらった。
 - ・同じ悩みを持ち独自に工夫して解決を図っていることが分かり意欲が沸いてきた。
 - ・複式には自分が抱えている課題以外にもっと多くの課題があり先生方の取り組む姿に勇気づけられた。
 - ・複式のよさを生かした授業作りの大切さがわかった。
- 2 今後学校で考えていきたいこと／実践したいこと
 - ・ガイド学習の実践・定着をはかる。
 - ・自校化したガイド学習の手引きを作成していきたい。
 - ・ガイドとフォローアとの協力体制を築いていきたい。
 - ・授業を組み立てる上での導入・まとめの工夫をしたい。
 - ・多様な考え方をもとに高め合う観点を明確にしたい。
 - ・子ども同士の話し合い伝え合いについて考えたい。
 - ・子どもが「学校が楽しい」「授業が楽しい」と言ってくれるような学校・学級の活動・授業づくりをしたい。
 - ・個性や人間関係を打破するための取組を考えていきたい。
 - ・社会や理科の指導法や校内での協力体制を見直したい。
 - ・校内の設営や備品の整備を進めたい。
 - ・一人学級の指導の工夫について考えたい。
 - ・近くの学校との協力体制や指導計画づくりを行いたい。
 - ・研究授業の共同参観を行いたい。
 - ・教材研究の効率化のためにデータの共有化を図りたい。
- 3 この会に対する意見・要望など

表2 「語る会」の参加人数と勤務先

第1回	参加人数	第2回	参加人数	第3回	参加人数	第4回	参加人数	第5回	参加人数	第6回	参加人数
岡久根市	1	いちき串木野市	2	奄美市	1	伊佐市	1	姶良市	1	姶良市	2
天草市	1	さつま町	1	伊佐市	1	出水市	2	奄美市	1	伊佐市	1
奄美市	2	長島町	1	出水市	2	指宿市	1	伊佐市	1	いちき串木野市	1
出水市	1	南大隅町	1	伊仙町	2	大崎町	1	鹿児島市	1	鹿児島市	3
指宿市	1	南九州市	2	指宿市	1	鹿児島市	3	姶良市	1	姶良市	2
鹿児島市	1	屋久島町	1	薩摩川内市	1	肝付町	1	薩摩川内市	1	錦江町	1
姶良市	3			瀬戸内町	1	薩摩川内市	2	瀬戸内町	1	薩摩川内市	2
さつま町	1			菅於市	2	瀬戸内町	1	菅於市	2	さつま町	2
志布志市	1			徳之島町	1	長島町	1	徳之島町	1	菅於市	2
垂水市	1			十島村	2	南九州市	2	長島町	1	垂水市	1
長島町	4			長島町	2	屋久島町	2	中種町	1	知名町	1
三島村	1			中種町	2			西之表市	3	南さつま市	1
南九州市	1			西之表市	1			南九州市	1	屋久島町	4
南さつま市	1			三島村	1			屋久島町	1	和泊町	1
屋久島町	2			南さつま市	1						
				屋久島町	2						
合計人数	22	合計人数	8	合計人数	23	合計人数	17	合計人数	17	合計人数	24

- ・模擬授業を受けることで日ごろ子どもがどんな思考作業をしたり学習問題からまとめる段階までの間でどんな喜びを味わったりするのかを感じることができた。
- ・初めて複式担任をすることになったとき何をしていたか分からず大変な思いをした。教えてくれる人が近くにないこともプレッシャーだった。
- ・県全体の複式学級の現状について話し合う場があることはとても指導に役にたつ。今後も継続してほしい。
- ・この会を定期的にやってほしい。
- ・普段感じていることや疑問を多くの先生方と話すことができたよかった。
- ・学習指導だけではなく生徒指導の話もできてよかった。
- ・他校の授業の実践も聞きたい。
- ・2学年分教材研究を効率的に行う方法を知りたい。

【第2回 複式学級の指導を語る会・アンケート結果】

- 1 この会を通じて役に立ったこと
 - ・複式学級のよさを改めて知ることができた。
 - ・少人数学級はメリットがたくさんあるということを知ることができた。
 - ・初めて参加したが、他校の先生の実践や模擬授業などとても勉強になった。「教材研究が大変だが、デメリットではない」という言葉に元気をもらった。
 - ・第1回で学んだことも含めて、ガイド学習の進め方や授業の流し方など指導方法が役に立った。
 - ・複式学習について、細かな配慮などが参考になった。各学校の悩みなどを共有できてよかった。
 - ・学習環境の充実が大切だと改めて感じた。
- 2 今後学校で考えていきたいこと／実践したいこと
 - ・前年度までの学習を掲示し、学習の参考にしていく事例が大変興味深かった。小学校でも活用できないか検討していきたい。
 - ・より具体的な活動の道筋を立てることを心掛けたい。
 - ・学校全体で共通して行う必要があることを少しずつでも実践していきたい。
 - ・教育課程の編成の工夫について早速職員会議で提案したい。
 - ・ガイド学習の練り上げの視点など3学期に生かしていきたい。
 - ・子どもの作品を新聞に投稿したいと思う（子どもの自信につながりそう）。

続いて、2年目第4回のアンケート結果では、他県の事例を通して反省的に自らの実践を振り返ることができたという意見や、子どもの学びを「関わり」や「対話」という観点から再検討できたという記述もみられる。複式学級の良さを少人数・異年齢集団といった環境レベルでとらえるだけでなく、そういった環境が学習過程においてどのように良さが発揮されているかという踏み込んだ

考察にシフトしていることが窺える。

【第4回 複式学級の指導を語る会・アンケート結果】

- 1 この会を通じて役に立ったこと
 - ・他県の複式学級指導の様子を知ることができた。
 - ・他県の実践から、自分を振り返る良い機会となった。
 - ・「関わり」について、多様な考え方を学ぶ機会になった。
 - ・「関わり」について「教材・自分・他者」の観点から考えることができ、対話の視点を深めることができた。
 - ・「関わり」を意識して自分の授業を振り返ることができた。
 - ・新たな視点から授業について考えることができた。
 - ・体育の取り組みは興味深かった。
 - ・国語の授業で拡大教材の使い方が参考になった。
 - ・他校の実態を聞きながら多様な支援の仕方を学べた。
- 2 今後学校で考えていきたいこと／実践したいこと
 - ・複式教育の特性を活かした「人間形成」に取り組みたい。
 - ・縦割りの良さをもっと活かしていきたいと思った。
 - ・「複式だからこそできる学習」に取り組んでいきたい。
 - ・集団の在り方によって個が活かされるという視点が興味深かった。
 - ・コミュニケーション能力を高めるための工夫をしたい。
 - ・体育の実践を見て、意図を持った異学年の関わりの方の設定について考えたいと思った。
 - ・各教科の特性について学ぶことでより効果的な指導に繋がることを実感した。

最後に、第6回のアンケート結果の概要を挙げておきたい。ここで注目されるのは、ワークショップを通して、複式学級だけでなく単式学級でも活用されるべき指導の基本や普遍的な価値について学べたとの言及がみられた点である。ここから、複式学級指導法に対して視野の広がりがみられるようになったことがわかる。

【第6回 複式学級の指導を語る会アンケート結果】

- ・他校との交流ができて情報交換の場となった。
- ・教材分析・めあての大切さを学んだ。
- ・教科を学ぶことの大切さを知った。
- ・複式学級の授業ではなく、授業の基本を改めて見直すことができた。
- ・単なる複式指導法ではなく、国語の教材研究という感じだった。
- ・「学びを深める学び方」が参考になった。
- ・複式学級の難しさとやりがいを感じた。
- ・「めあて」の設定の仕方を学んだ。
- ・話し合いの大切さを知った。
- ・次の学期に活用できる授業であった。
- ・学校に持ち帰って他の職員にも伝えたい。

- ・ガイドの育成は、話型ではなく、教師のモデルが大切だと学んだ。

3 複式学級の良さを活かした指導法に向けて

以上に述べたように、「語る会」は、ガイド学習やわたりのタイミングなど狭い意味での複式指導を解説する場ではなく、複式学級の良さを活かしながら、広く学習観や子どもの能力像を論議する場として回を重ねてきている。

また、参加者の個別の悩みを交流する段階から、学校や地域レベルで小規模校の良さを高めていく組織的な取り組みの必要性が語られるようになった点も注目される。このことは、少子化による統廃合や一貫校化が進んでいる中で、未来の学校像を考える上でも重要な議論であるといえる。複式学級の良さを活かした授業づくりは、数の論理が先行している現在の学校再編の動向に対する問題提起ともなるだろう。

複式学級で教えるということは、教員にとってはその指導力が問われることを意味する。しかし、そこで問われる指導力は、本来は通常の学級においても同様に求められる本質的なものが、より顕著に現れているという側面をもっている。それゆえに、教員にとっても貴重な成長の機会であるとともに、大きなやりがいを得る機会であるといえよう¹。

付記

「複式学級の指導を語る会」は、平成23年度当時の附属小学校複式研究室主任の石川雅仁教諭、及び宮崎憲一郎教諭、當房省吾教諭と教育学部教員によって計画されスタートしたものであることを付しておきたい。

¹ Association for the Development of Education in Africa (ADEA) (2005) *Resource Materials for Multi-Grade Teaching* には、複式学級を受け持つ教員のための具体的な研修資料が集められていると同時に、複式学級の良さや教師にとってのやりがいについて述べられており、その内容は「語る会」での議論と多く重なるものであり、参考になる。